

ヨコハマ人・まち 第4号

-まちへ人がまちをつくる-

都市計画局企画調査課では、パートナーシップのまちづくりを進めるため、まちづくりに関する情報誌を出すことになりました。この情報誌は、趣旨に賛同して集まった市民と企画調査課で作っています。具体的な地域のまちづくりの事例を中心に、活動支援制度、行政や企業のかかわり方などを紹介していきます。

ふれあいロードの案内人！

—横浜シティガイド協会—

はまっ子がハマをガイドします

■シティガイド協会発足

近代の歴史が凝縮している横浜には、歴史的資産のことだけでなく、自分が住んでいる街「横浜」のことをもっと知りたいと思っている人や、「横浜」の街の歴史をさらに学習し知識を深めたい人など横浜大好き人間たちが沢山住んでいます。その人たちに横浜の歴史や文化をもっと広く深く学んでもらい、その成果を観光客や居住歴の浅い市民にガイドしてもらうために1992年8月13日に「横浜シティガイド協会」が発足しました。

■私たちのまち「横浜」をもっと知りたい

半年後に中区の生涯学習の講座として「横浜シティガイド講座」を開講。講座名にある“シティガイド”という言葉に自分にもできるのかしらと不安と期待とを合わせた気持ちで参加した人ももちろんいました。きっかけは様々でも3ヶ月間の定期的な研修・現地見学に意欲的に取り組み、それぞれ着実に学習の成果はあがりました。



ボランティアによるガイドの様子

(→次頁左へ続く)

■歴史を生かしたまちづくり

横浜には、開港以来培われてきた独特の文化があります。海外へ開かれた港町として、洋風のビルや洋館といった建造物や、道路、橋、石積みなどの土木遺構が残っています。また、郊外部には旧街道や農村の風情を伝える古民家や社寺が残されています。

これらの歴史的建造物は、まさに「横浜らしさ」をかたちづけており、かけがえのない市民共通の財産といえます。そこでこれらをまちの魅力資源として、新しいまちづくりに積極的に活用する施策を展開しています。

★「歴史を生かしたまちづくり要綱」

この制度は、市自らが歴史的な資産を大切にしていこうととも、所有者の方々の保全の努力に対し、支援をしていこうというもので、つぎのような特徴があります。

- ①外観の保全を最優先し、内部はむしろ積極的な活用を望みます。
- ②保全のための改修等に最高6000万円（木造以外の建物で、

都市計画の キーワード

歴史的建造物として認定した場合)の助成をします。なお平成9年度から、耐震改修(構造補強)についての助成が新たに設置されています。

- ③歴史的建造物とその評価に応じて、「登録」「保全契約」「認定」の3種類に分け、幅広く柔軟な対応をします。

★「横浜市認定歴史的建造物」

歴史的建造物のうち、特に重要な価値があると認められたものは「横浜市認定歴史的建造物」として認定を受けることができます。

認定に際しては、所有者の方と市及び専門家が協議をし、該当する建造物をどの様に保全し活用していくかを定める「保全活用計画」を定めます。認定を受けるとこの計画に沿った保全計画の行為に対し市が助成することができます。

この計画に関係する改修等を行うときは、市に届出をしていただき、所有者の方と市及び専門家、工事関係者の協力のもとに作業を進めることとなります。

「歴史を生かしたまちづくり」についてのお問い合わせは横浜市都市計画局都市デザイン室(TEL.671-2023)まで。

続けて研修講座も開講し、学ぶことが生活のリズムの一部になりました。何十年ぶりで学校のような講義を受けることにわくわくしたり、歴史を活かしたまちづくりの一環である歴史的建造物として保存されている古い洋館を実際に見学したり、自分たちの足で歩いて発見した情報も盛り込んだ地図作成とガイドテキストを作ったりと充実した活動を続けてきました。

■会社を卒業してからが本当の生涯現役

シティガイド協会の会員は現在80数名ほどになり、その中には会社を定年退職した人も何人かいます。様々な社会経験を活かし、会社時代には発揮できなかった才能をシティガイドの場で花開かせているようです。参加した当初は普通のおじさん・おばさんだった人が一生懸命勉強してガイドとして活躍し、回を重ねてどんどん自信をつけて、いつのまにかきらきら輝いていくのです。

まだまだ若い？会員は自分たちがそんな風に素敵に年を重ねていける現実を目にして将来への夢をつないでいきます。会社に属していることが社会とのつながりと思いがちですが、真の社会参加とは自分の住む街にどう関わるかが重要なことだとわかってきました。

地域を生活のベースに置く時間は、人生が80年と言われる現代ではほぼその半分にあたります。自分が住む地域の住みやすさや人間関係はやはり自分が積極的に関わることで築き上げていくことができると思います。「横浜シティガイド協会」の会員たちはガイドするするという活動の中で自分たちの街「横浜」を見つめ、大切にしていこうとしています。

■ボランティアガイドとして活動中

今年は「かながわ国体」が開催されます。そこでも「横浜シティガイド協会」はボランティアガイドとしてお手伝いする予定で、そのための研修も進行中です。この他にも全国のボランティアガイドの大会に参加したり、他地域のボランティアガイドのグループとの交流も行っています。

毎年恒例となった春と秋の企画ガイドは毎回好評で、今春は「暮末を偲ぶ野毛」「花の丘を歩く根岸」「ハイカラを楽しむ山手」「ハマに遊ぶ港」の4つのコースを企画しました。

「まちづくり」は結局のところ「人づくり」ということができます。自分たちのまちを愛し、守り、育てていくためにはまず人々の心の中にその種を蒔かなくてはなりません。観光スポットも多く、それだけで魅力十分なまち「横浜」ですが、それに加えて現在の基盤ともなったまちの歴史や文化。そうしたものを学び、大切にすることによって、次世代に繋げて行くことが私たちにとっての重要な使命だと思えます。(松井)

※ガイドについてのお問い合わせは

「横浜シティガイド協会」TEL045-623-4550 嶋田まで

応援します あなたの 生涯学習



横浜市
生涯学習支援センター
生涯学習相談コーナー
ご案内

生涯学習支援センター、コーナー
の案内パンフレット
(各センター、コーナーで配布)



インターネットホームページでも生涯学習支援センターについて情報提供しています。
●ホームページ「はまなび」アドレス
<http://www.city.yokohama.jp/mei/gakusyu/index.html>

ホームページ「はまなび」

ネクタイはずして輝いている男達(親父達)

いま中高年、熟年を中心に会社人間から地域に目を向けようとする父親が増えつつあります。

会社員である父親が地域に帰る意義は三つあります。

会社員が地域と会社をいったりきたりすれば、バランスのとれた個人に生まれ変わります。そんな社員が多くいる会社は、時代の変化に即応できる柔軟な組織になります。さらに地域活動に役立つマネジメント力をたずさえての地域参加は市民中心のまちづくりを推進します。そうなるこそ、ボランティア活動など会社だけでなく地域でも「働くこと」が普通のライフスタイルになっている欧米のビジネスマンと真の意味で対等になるはずで。

ウイークエンドは地域に徹するからこそ、1週間のストレスが消え、月曜日から心機一転。会社の仕事に全力投球できます。

2月11日、横浜の「丘の手」といわれる都筑区に「ふくろう」好きが集まりました。集まったメンバーは、保険会社、広告会社、建設会社に勤めている人、デザイナー、コンサルタント、など。その後続々とメンバーも増え、ほとんどは親父です。

会の名前は「ゆめふくろう」(ホーホロスケ会)。昔、都筑の森にもいたという「ふくろう」を通じて動物、さらには自然、環境の勉強をし、観察会などを開きたいということになりました。これを生涯学習の講座としてやってみようという声があり、区の生涯学級へも申し込もうと意気込んでいます。(鴻田)

あなたの「学び」を応援します

「生涯学習支援センター」

平成6年11月、横浜市は18区の区役所または区民利用施設に学習相談ができるスペースとして、生涯学習支援センター（あるいは生涯学習相談コーナー）を作りました。各区には2人ずつ学習相談員がいて、“パソコンの講座はありますか”“市内でキャンプのできる場所を知りたい”“いじめについての講師を紹介して”というような学習情報の提供，“退職したので何か始めたい”“仲間と地域のことを学びたいので、グループの作り方を教えて”“福祉施設で働くためにはどんな資格がいるの”というような学習相談にお応えしているほか、学習機材の貸出し、交流の場の提供も行っています。

平成9年10月には、全区の生涯学習支援センターにパソコンを導入して、どこの生涯学習支援センターからでも、学習相談員が講座・イベント情報などの生涯学習情報を検索できるようになりました。また、神奈川県生涯学習情報センターと連携して、インターネットを利用した情報の提供も始めました。

横浜市では、地域でさまざまな学習活動やグループ活動をしている人が学習相談員になっていることが多く、相談にみえる方との関係も、教える・指導するではなく、相談者の話すことをよく聞き、同じ目線で考え、共に学ぼうという姿勢で接するよう努めています。そこで、学習したい人たちを結びつけてグループを作ったり、グループとグループをつなげたりと、地域のネットワークづ

くりのお手伝いをします。また、ボランティアをしたい人や、特技のある人などに人材登録をしてもらい、問い合わせがある時には、紹介をするなど、コーディネーターとしての役割をしているところもあります。このように、市民と密接な関係にあることが、生涯学習支援センターが全国的に注目されているゆえんといえましょう。

まだ一度も利用したことがない方は、ぜひ、覗いてみてください。（賀谷）

各区の生涯学習支援センターまたは生涯学習相談

コーナー

鶴見区 510-1694	神奈川区 411-7088
西区 320-8396	中区 224-8138
南区 743-8196	港南区 847-8399
保土ヶ谷区 334-6306	旭区 954-6098
磯子区 757-2394	金沢区 788-7803
港北区 540-2246	緑区 930-2237
青葉区 978-2288	都筑区 948-2237
戸塚区 866-8419	栄区 894-9900
泉区 800-2393	瀬谷区 367-5697

この他にも各区では、市民の生涯学習をさまざまな形で支援しています。

例えば「広報よこはま神奈川区版（2月号）」ではこんな形で募集していました。

（ここでいう学級とは連続講座で同一の参加者で構成されているものをいいます。）

生涯学級・家庭教育学級
運営委員募集

環境・高齢化・女性・人権・家庭教育の問題など、社会的課題の解決の糸口を、学級運営をとおして考えてみませんか。

▼内容 講師謝金・会場の確保等を支援します。

※個人・グループとも相談してください。

ここにもあります地域の身近なまちづくり

保土ヶ谷宿400倶楽部と東海道膝栗毛セミナー

保土ヶ谷宿400倶楽部

「保土ヶ谷って、どんな町」って考えてみるとベットタウンで普通のまちで特色も感じられない所という印象でした。東海道五十三次の宿場のひとつである保土ヶ谷宿という全国ブランドを活用して歴史のルーツを今のまちづくりに生かしていこうとする会として、保土ヶ谷宿400倶楽部が1987年8月に発足しました。地域で商店を経営する人も参加してきました。

東海道をテーマにした各市民グループの中でも、おそらく一番早く、2001年が東海道宿駅制度の制定400周年ということに気がついて会の名前につけました。

手始めとして何かイベントをしようということで、宿場落語をお寺でやったり、また商店街で「宿場祭り」開催の協力、宿場名物料理の試作、区史づくり、宿場博物館の提案など、歴史を生かしたまちづくりについての具体的な提言が次々と出てきたのです。これらは新聞などでも取り上げられ

て、会員の意気もあがり、区役所の支援もあり進めていくことができました。

東海道シンポジウムの第8回大会を保土ヶ谷で1995年に開催してから、街道沿いの町とのつきあひも広がってきています。1996年滋賀県水口での第9回大会へはバスツアーを組んで15名が参加しました。

東海道膝栗毛セミナー

横浜市内でも各区役所と市民グループの共催による取り組みとして1996年度は東海道膝栗毛セミナーが3区合同（神奈川、西、保土ヶ谷）で開催されました。1997年度からは5区合同（鶴見、神奈川、西、保土ヶ谷、戸塚）で講演と各区の発表の二部構成で開催されました。各区の市民グループと区の担当が半年前から打ち合わせをして開催に漕ぎ着けました。横浜の東海道という地図を共同で作成し、5区の共有財産として今後活用していく予定です。特に2001年まであと4年ということで横浜から発信するイベントを企画していこうという雰囲気も盛り上がってきています。

（東海道膝栗毛セミナー実行委員・保土ヶ谷宿400倶楽部 齊藤）

イベント報告

— 各地域で行われた
イベントの報告です —

■戸塚区「ちくこん情報交換会」が開催されました

3月12日、創刊号でご紹介した戸塚区地区懇談会の情報交換会が開かれました。各地区連合からそれぞれの地区懇談会の報告がされ、後半はよりよい「ちくこん」にするための意見交換を行いました。地域と行政が役割分担と責任の所在をはっきりさせ、パートナーシップで課題解決に取り組むことで、様々な成果をあげています。

各地区とも持ち時間が足りなくなるほど熱のこもった発表で、意見交換でも、地域の中で対立していたことも徹底的に議論して乗り越え「真剣に話し合えばいい芽がでる」といった力強い発言もありました。最後は区役所からの「下から、内から戸塚のまちを作っていこう」という言葉で締めくくられました。まさにそのようなまちづくりが始まっていると感じました。(賀谷)

■神奈川区「友・遊・まちづくりフォーラム」を終えて

何のためにやるのだろう、こんなに苦労して……。

7回の実行委員会と数回の専門部会を経て、苦しくなると頭の中をよぎるこの疑問に明確な答えがみつからないまま、「3月15日」神之木地区センターで本番を迎えました。

神奈川区で初めて開かれるこのフォーラムは、テーマを「はじめよう・ひろげよう・神奈川区のWA」(「WA」は「輪」であり「和」でもあります。)と決めました。25の「テーマ」を持って活動しているグループが6つのゾーン(「あらゆる人が共に暮らす」「歴史から学ぶ」など)に分かれて展示、イベント、体験コーナーなどで活動を紹介。智恵と工夫が随所にみられ、学ぶべきことが多くありました。また、人間が活動している熱い息吹に触れ、感動を与えてくれました。

昨今の社会の変化はより激しさを増しています。都会での人間関係の稀薄化は一人でも暮らしていけるような錯覚を生みます。しかし、ますます進む高齢化の中で、人と人とのふれあいと助け合いは自分の暮らす地域で「幸せ」に暮らすために、欠

かせない条件です。

一人ひとりを大切に思う心や共に生きる心は、「生涯学習」と「生涯学習活動」によって、育まれていきます。

「楽しかった。」「人が力を合わせるとすごいことができるね。」「家族みんなできました。」「実行委員の笑顔がいいですね。」「ボランティア活動の大切さが分かった。」約700人の参加者から聞かれた感想からも裏付けられた気がします。

「何のためにやるのか」…冒頭の疑問が吹き飛んでしまった一日でもありました。

(神奈川区生涯学習支援係 竹内)

イベント情報

■「西部方面の会」で天王森泉公園を訪ねます。

5月16日(土)、「西部方面の会」で第3号で紹介した天王森泉公園を訪ねます。午後2時現地「天王森泉館」に集合です。

■実学・横浜金沢一街のプロデューサー入門講座 第1期受講生募集中

「横浜金沢」を体感し、街を総合的に演出するための方法論を学ぶ学習講座です。金沢の街づくりをやってみようという方の参加をお待ちしています。(4月22日第1回目実施予定)

問い合わせ先: 金沢区役所区政推進課企画調整係045(788)7727

金沢区ホームページ:

<http://www.city.yokohama.jp/comm/kanazawa/index.html>

■“みんなで考えよう都心の水辺”

「大岡川中村川ワークショップ」参加者募集

大岡川・中村川・堀川をいかに活用・利用していくかを考えるワークショップ。5月より開催予定です。

問い合わせ先: 横浜市下水道局河川計画課045(671)2858

下水道局ホームページ:

<http://www.city.yokohama.jp/cplan/mizu/mizu.index.html>

横浜市のホームページの中に「ヨコハマ 人・まち」のホームページを開設しました。この印刷物とはほぼ同じ内容のものがインターネットでご覧になれます。インターネット版では、バックナンバーもごらんになれます。

(<http://www.city.yokohama.jp/me/hitomati>)

編集:「ヨコハマ 人・まち」編集会議

発行:横浜市都市計画局企画調査課 〒231-0017 横浜市中区港町1-1

TEL 045-671-3512 FAX 045-663-3415

第4号の編集メンバーは

大貫 浩、榎山 恵美子、金城 耕太郎、鴻田 益孝、重岡 昭男、谷口 和豊、松井 祐子

川崎 あや、川瀬 泰代、賀谷 まゆみ、鳥山 稔

でした。

編集後記

「パートナーシップのまちづくりを進めるための情報誌」として、1号から住宅地、福祉、環境、生涯学習とテーマを変えて取り上げてきましたが、このような様々なテーマで私たちはまちにかかわっていくことができます。今回のテーマ、生涯学習についていえば、学習を通じて「まち」に気づき、それが自分たちのまちを作りたい、ということに発展していくのではないのでしょうか。逆にまちづくりそのものが、生涯学習だともいえるかもしれません。

まちづくりにかかわるきっかけはまだたくさんあります。また、活動を進めていくやり方もいろいろです。この情報誌を読んだ一人でも多くの方が、自分たちのまちに関心を持ち、何らかの活動を始めたり、すでに活動されている方の参考になればと思って作ってきました。みなさまからのご意見をいただきながら少しずつ内容やレイアウトなども直してきましたが、いかかでしたでしょうか。

来年度はみなさまのご意見をうかがった上でよりよい情報をお届けしていきたいと考えていますので、ご意見ご感想をお寄せください。